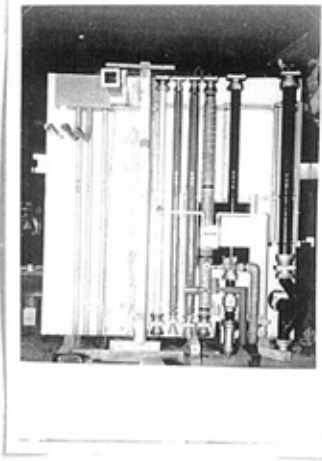
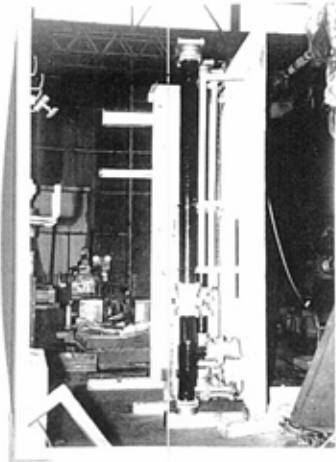


# = 搬送ユニット =



Se 12.4 KOJIMA型



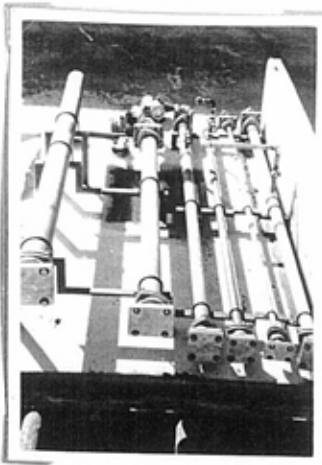
Se 2・4・1 KOJIMA型



Se 12.4 KOJIMA型



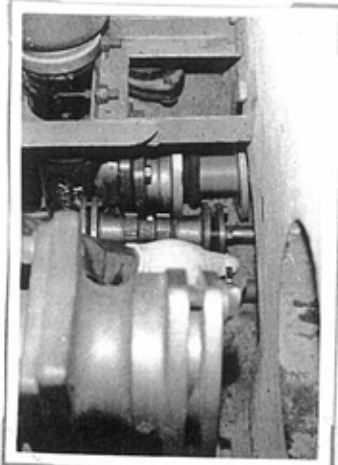
Se 2・4・1 KOJIMA型



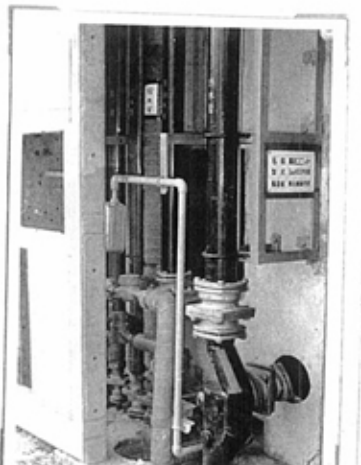
Se 12.4 KOJIMA型



Se 12.4 KOJIMA型

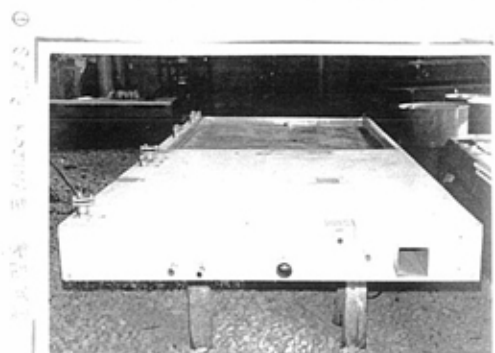
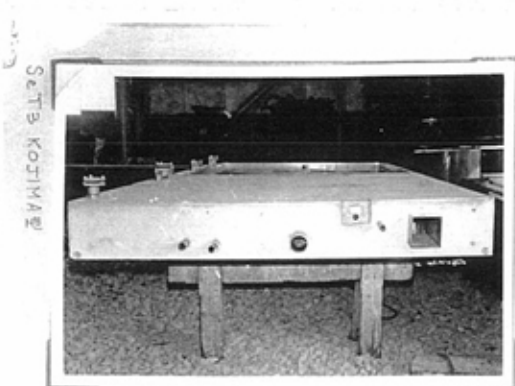


Se 12.4 KOJIMA型 地1号機(2)

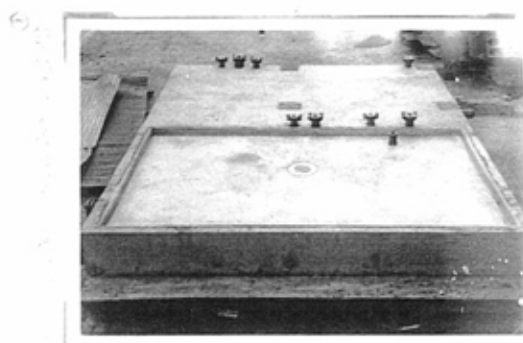
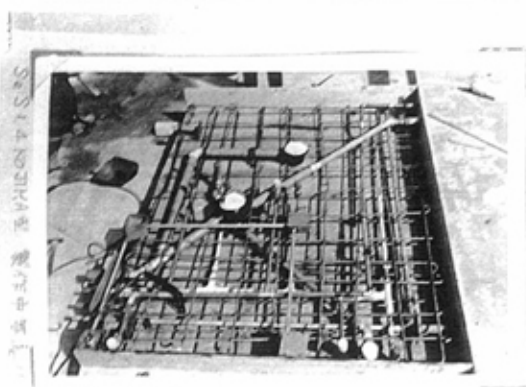
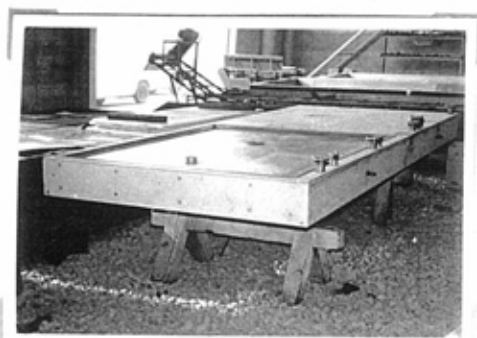


Se 12.4 KOJIMA型 地1号機(2)

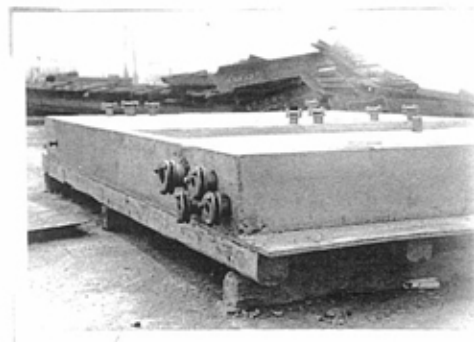
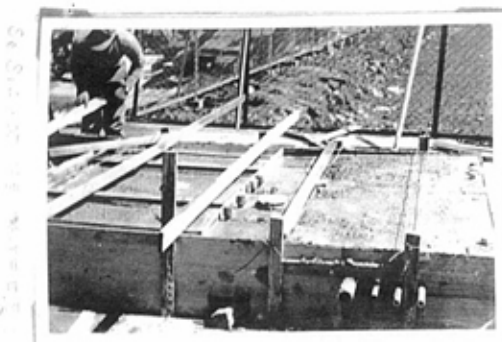
# ＝ 搬送ユニット ＝



ST3 KOJIMA型



SeS1・4 KOJIMA型







諸君と一体になって本当によく勉強してくれました。今日はいちいち名を挙げきれませんが、今日回顧した成果は、何れも諸君のものであります。厚く御礼申しあげます。

尚、卒業生諸君は、ここで過した短い期間にそれぞれ無二の親友を得たと思います。離れ離れになってもどうか健康で、元気に一生を送って下さい。

第2は、都市にしても住宅にしても、最終の目標は人間関係のよさに基づく幸福であることです。今迄の比較的貧しかった頃はどうしても物理化学的状況に重点を置いてきた。これは基礎をしっかりと固めるという観点で大変よかったことは勿論ですが、今や経済的にも恵まれる状況にあるので、今こそ建築の目的は人間同志の幸福感であり、人間関係の増進であることを改めて念頭におきたいと思えます。

これに伴って、建築環境工学という名称は、昭和39年に建築学会で小木曾定彰先生に進言してつけた名ですが、よかったと思うので、この上はもう一度建築計画学第1講座がわれわれ分野の出発点ですからその名に恥じないように計画への活用をお願いしたい。

第3は、途中で終わっている幾つかの研究のことで、例えば排水については最近重要な事象を発見しましたし、その他冒頭でも述べたように今日本の住宅の最大の物理的・化学的な観点では気密化に伴う換気問題です。私の在職中の理大ではそれを殆んど果すことができなかった。東大グループに大いに期待してき

ましたが今後は本学も仲間に入れて是非よろしくお願ひしたい。

第4は、その他の建築設備の行方の見定めですが、私見によれば設備のユニット化です。ユニット化とは部品化です。これはやり残してしまったので是非完成して頂きたい。

**斎藤平蔵先生論文論説集**

東京理科大学退官記念出版(非売品)

---

平成元年三月一日

発行者 東京理科大学理工学部建築学科斎藤研究室

発行所 千葉県野田市山崎2641

東京理科大学理工学部建築学科内

印刷所 東京第一印刷(株)

---